

第26回東濃会

2023（令和5年7月6日）

東濃会とは、

●設立経緯：

（平成20年4月首都圏同窓会会報19号中島千尋会長の寄稿文『東京岐阜県人会と瑞高首都圏同窓会との親睦連携状況について』参照。

【平成20年1月10日に当時の瑞浪高校首都圏同窓会相談役の加藤岑夫氏を幹事長に東濃地方五校（多治見北高・瑞浪高・岩村高・恵那高・中津高）の在京同窓会の幹部連絡会を開催し、在京東濃地区の親睦を深めてゆくこととして設立された組織。】

●正式組織名：東濃会と称する

●会員：東濃地区高校首都圏同窓会現・元役員にて構成される

注）現在の構成校は、土岐商業高校を含め6校の役員にて構成されている

●会員数：22名（名簿は別紙参照）

第26回東濃会開催会場は、有楽町の過門香 點にて15名が参集し、当会への初参加メンバー紹介も兼ねた全員の自己紹介と共に、各校在京同窓会の現状が報告された。

恵那南高校 2名 土岐商業高校 2名

恵那高校 4名 中津高校 2名

多治見北高校 0名 瑞浪高校 5名 合計 5校 15名

瑞浪高校は、小栗前会長、伊藤会長、長谷川副会長、加藤副会長、宮田幹事長が参加

共通する各校在京同窓会の課題は、やはり少子高齢化による構成会員の固定化・高齢化と新規会員登録の減少傾向である。その打開策としては、SNS等の新たな情報網の活用と地道な口コミによる在京者の発掘と勧誘を続ける以外に妙手はないとの複数の意見が出た。

いずれの在京同窓会も、本校や地元同窓会との活発な連動が基本となっていると事。

最後に、瑞浪高校の伊藤会長から、次回の幹事校は引き続き瑞浪高校が継続すること、次回開催は来年の同時期と発表された。

文責 加藤 桂吾